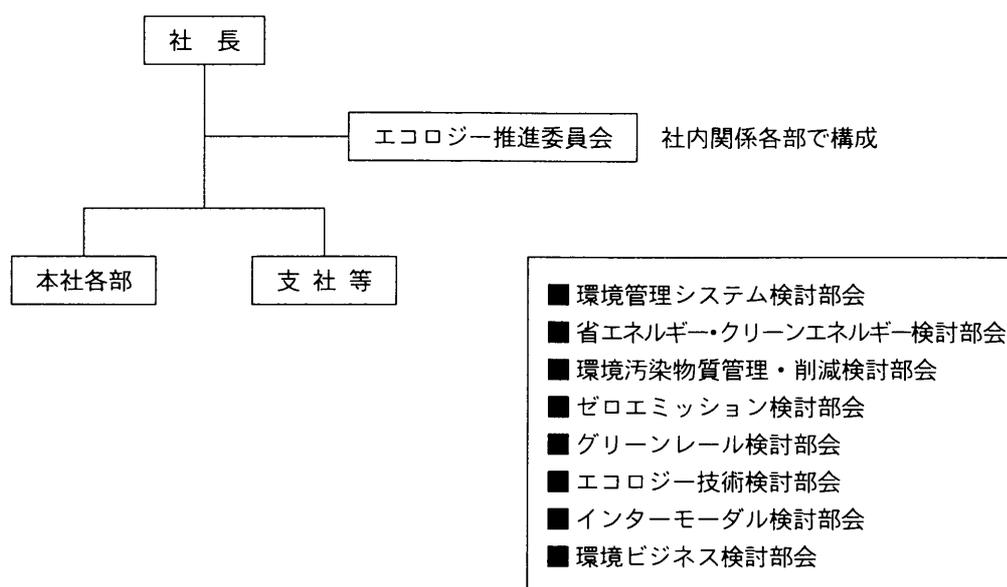


# 環境管理

## ■ 環境についての取り組み体制

平成4年4月に地球環境問題を含めた広範な環境問題への取り組みを強化するためエコロジー推進委員会が発足しました。委員会は会長を長とする横断的組織でそれぞれの事業の責任者を網羅して構成されています。専任の事務局を経営管理部に設置しており、具体的なテーマ毎に検討部会を設置し、その検討結果を委員会に報告しています。



部会の構成は新たな時代の要請などに合わせて、昨年までの7部会を統合・新設して、以下の8部会といたしました。

- ①環境目標の設定や環境施策の策定及び見直しなどの、全社的なサイクルを国際的な環境管理システムへの発展を検討する「環境管理システム検討部会」
- ②エネルギー枯渇や地球温暖化の原因の二酸化炭素排出の問題を検討する「省エネルギー・クリーンエネルギー検討部会」
- ③地域の環境に悪影響を与える環境汚染物質やオゾン層を破壊する物質などの問題を検討する「環境汚染物質管理・削減検討部会」
- ④地球の浄化能力への負担を軽くし、森林の破壊や貴重な資源の枯渇を防ぐためのリサイクルや再生品使用の問題を検討する「ゼロエミッション検討部会」
- ⑤沿線の自然環境の保護・育成や列車走行に伴う騒音の問題を検討する「グリーンレール検討部会」
- ⑥環境に関する技術開発を検討する「エコロジー技術検討部会」
- ⑦鉄道の特性を活かしつつ交通システム全体として環境負荷を少なくすることを検討する「インターモーダル検討部会」
- ⑧新たな事業分野で環境に貢献することを検討する「環境ビジネス検討部会」

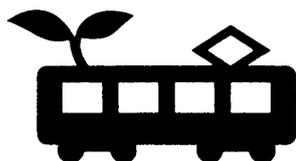
また、全支社にもエコロジー推進委員会を設置し、支社単位の環境管理体制を整備いたします。

## ■ 環境管理システム

平成8年9月に国際的な環境規格であるISO14000シリーズが発効しました。JR東日本では、事業活動と環境に関する影響について、平成7年より全社的な把握を開始しています。平成9年からは全現業機関を対象とするエコロジーチェックリストによる調査及び全支社等を対象とした環境ヒアリングを新たに実施いたしました。これらのデータを、環境目標の設定や環境施策の策定及び見直しに反映させており、継続的に環境改善していく全社的なサイクルが既にスタートしています。今後は、この仕組みを国際環境規格に準じた環境管理システムへ発展させていきます。また、駅や電車区等の機関に適用できる環境管理システムの構築に取り組みます。

なお、最新の省エネルギー車両（209系・京浜東北線などで運用）を製造している新津車両製作所ではISO14001の平成10年度内の認証取得を目標とします。

### ★ シンボルマーク・キャラクター



●シンボルマーク  
電車と緑を図案化



●キャラクター「エコロ君」  
山岳遭難救助犬セントバーナード種を図案化